

政務活動に係る活動報告書

会 派 名	市民クラブ
活 動 項 目	先進地視察・研修会開催・研修会参加・その他（ ）
年 月 日	令和6年2月5日（月）
参 加 者 名	中川とみ子、佐藤 昇、枝松直樹
視 察 地	千葉県匝瑳市
目 的	農業への自然エネルギーの導入の可能性を調査すること
調 査 項 目 等	①営農型ソーラーシェアリングの成果 ②脱炭素化推進プロジェクトについて
概 要	匝瑳市では、令和5年11月7日に環境省から脱炭素先行地域の指定を受け、現在、匝瑳みらい株式会社、市民エネルギーちば株式会社、株式会社しおさい電力など18の団体が事業を行っています。 計画では、独自の細型パネルを採用した2,220KWの水田営農型ソーラーシェアリングの実施、建物の屋根にパネルを載せる6,128KWの太陽光発電も計画されています。 匝瑳市は、ソーラーシェアリングの先進地ですが、その主体を担っているのが市民エネルギーちば株式会社です。2017年には1,000KWのソーラーシェアリングを導入、令和5年には国内最大規模の2,700KWを新たに設置し、現在は50KWの施設が33にも増えています。 営農型ソーラーパネルは細型で幅36cm、長さ1.9mのものが、高さ3.5mほどの高さにあり、支柱の間隔は4～5mでちょうどブドウ棚のように作られています。パネルの下の地面では、豆、麦、葉物などが栽培されていましたが、日影ができることでの作物の制限は特にないとのことです。
所 感	雪のある東北でも取り組みは十分可能とのことで、本市でも、耕作放棄地の削減、新規就農者の誘導などメリットが沢山あり、農業経営に活かしていくことで今後展望が持てるように感じてまいりました。

政務活動に係る活動報告書

会 派 名	市民クラブ
活 動 項 目	先進地視察・研修会開催・研修会参加・その他（ ）
年 月 日	令和6年2月6日（火）
参 加 者 名	中川とみ子、佐藤 昇、枝松直樹
視 察 地	東京都豊島区巣鴨地蔵通り商店街
目 的	商店街の魅力をどのようにして創出しているかを調査する。
調 査 項 目 等	商店街の魅力創出について
概 要	おばあちゃんの原宿として全国的にも有名な巣鴨地蔵通り商店街は、山手線巣鴨駅や地下鉄巣鴨駅に近く、平均で1日約1万人、4のつく日に開催される縁日には4万人以上の人出があるそうです。全長約780mの商店街には組合加盟店150店舗、非加盟店50店舗が並び、食品、日用雑貨品、サービス業、飲食店など多様な店が並んでいます。 また、毎月1回開催される理事会の下に企画委員会、13の部会があり、イベント事業に力を入れ、年間を通して途切れないイベントでおもてなしをしており、いつ来ても何かをやっているという商店街づくりを実現しています。朝顔市、菊祭り、お寺の供養祭、大学との共催イベント、納涼盆踊り、露天商組合と協力した年36回の縁日、全国の自治体の物産展などが行われています。 今後は、親子3世代にわたる年齢層の拡大や外国人観光客への免税対応にも取組ながら、さらなる高みに向けて取り組んでいくとのことです。なお令和3年に無電柱工事を終えてとても趣のある商店街に生まれ変わりましたが、本市の十日町通りよりずっと狭い道幅のため、工事は夜間のみ施行したということでした。
所 感	本市の商店街づくりも、シャッターを閉めてしまった街並みを、原点に返り皆でもう一度商店街の盛り上げについて議論を始めなければならないと感じた次第です。

政務活動に係る活動報告書

会 派 名	市民クラブ
活 動 項 目	先進地視察・研修会開催・研修会参加・その他（ ）
年 月 日	令和6年2月6日（火）
参 加 者 名	中川とみ子、佐藤 昇、枝松直樹
視 察 地	東京都武蔵野市の複合施設「武蔵野プレイス」
目 的	総合的な市民活動の拠点であるの機能と果たす役割について
調 査 項 目 等	武蔵野プレイスの果たす役割について
概 要	武蔵野プレイスは、図書館をはじめとして、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援の4つの機能を備えた活動支援型複合施設です。人と人が出会う場を提供することで、市民の知的な創造や交流が生み出されるようにしていくことを目的にしています。 地下2階、地上4階の施設は、それぞれのフロアの機能をまったく分けるのではなく、たとえば図書館は地下2階から地上2階まで4フロアにわたり、他の機能と合わせて使えるように各階に分散配置されています。令和元年度のプレイスの1日の来館者数は6,400人、土日祝日は約7,000人、本の貸し出しは1日平均約3,600冊、年間約100万冊にもなります。地下2階は、中高生などの居場所として青少年活動支援機能を持ち、地下1階は、メインライブラリー、地上3階と4階は、生涯学習と市民団体の活動支援機能を持っています。このように充実した支援機能があるため、市民活動団体の登録は230団体に及びます。特筆すべきは、青少年活動支援としての地下2階です。青少年が気軽に安心して過ごすことができる居場所として、勉強、読書、遊びなど様々な過ごし方ができるようになっています。
所 感	行政が市民に寄り添い、市民のニーズに即したサービスを提供することで、市民の学習意欲が高まるとともに、その知識経験が地域のために活かされ自己実現がなされることは素晴らしいことであり、本市でも取り組むべき大事な課題でないかと再認識した次第です。

政務活動に係る活動報告書

会 派 名	市民クラブ
活 動 項 目	先進地視察・研修会開催・研修会参加・その他（ ）
年 月 日	令和6年2月7日（水）
参 加 者 名	中川とみ子、佐藤 昇、枝松直樹
視 察 地	埼玉県草加市
目 的	小1プロブレム及び中1ギャップの解消に向けての取組視察
調 査 項 目 等	幼保小中の連携の推進の取組について
概 要	草加市では「小1プロブレム」や「中1ギャップ」への対応として、平成24年度に「子ども教育連携推進室」を設置し、第1次草加市子ども教育連携推進基本方針・行動計画を策定しました。その後、平成28年からの第2次計画、令和2年からの第3次計画へと引き継がれ今日に至っています。 草加市では幼児期からの15年間を通じた教育課程の編に努め、「幼児期から小学校入学時の接続期」、「小学校から中学校入学時」の接続期」にアプローチする標準カリキュラムの作成と取組事例を例示するとともに、幼保小と小中間における子どもと教職員の交流・情報交換にも努めました。 その結果、子ども達の自己肯定感・自己有用感は毎年着実に高まってきていますし、子どものみならず先生方の自己肯定感・自己有用感を育むことも重要視し、先生方が顔見知りになり、気軽に相談できるように日常的な連携交流を図りました。 令和6年度からの第4次草加市教育連携推進基本方針・行動計画では ①幼保小中一貫教育については、充実から定着へ ②自己肯定感・自己有用感については新たに他者理解の育成を加えて重点目標としています。

所 感	草加市では平成24年からの12年に及ぶ息の長い取組の成果が徐々に表れてきたと感じました。 15年間を通じたカリキュラムを作成し、冊子として配布していることも素晴らしい取組ですし、本市でもぜひ取り組んでほしいと思います。の今後本市教育委員会の指導力に期待するところです。
-------------------	--